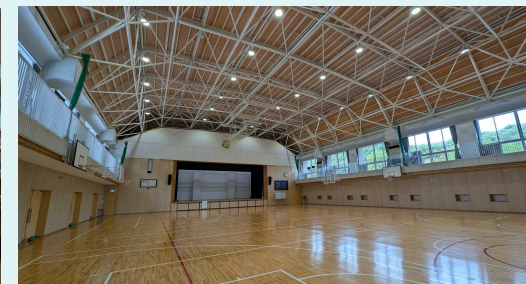


先進事例視察報告

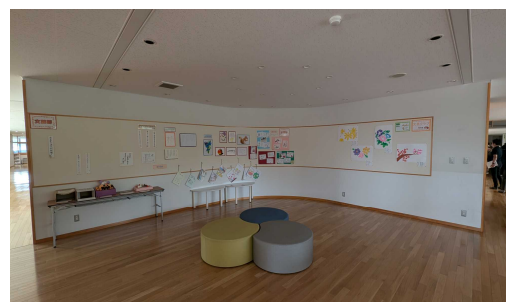
加東市立 東条学園小中学校（兵庫県）
令和8年5月12日



ハード面の特色 ～ 子どもと地域をつなぐ空間づくり ～



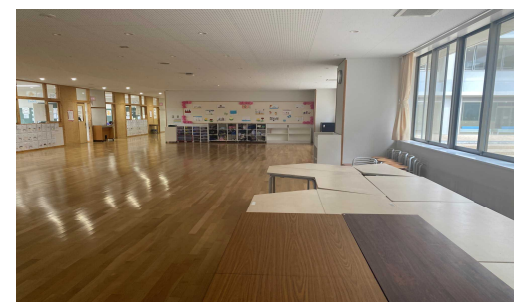
プレイロット
低学年教室前
上履きのまま外遊び



多目的スペース
廊下・教室横に配置
発表・グループ学習に活用



つながりのにわ
小中生が集う中庭
多くの目で見守る空間



ランチルーム
小中の垣根を越えて
給食交流・地域交流スペース

ソフト面の特色

～ 東条学園の教育実践 ― 4-3-2制で9年間を見通したカリキュラム ―

異学年交流

- ▶ 5・6年生が中学教員の授業を受講
- ▶ 「ハッピーランチ」で小中合同給食
- ▶ 「つなぐ平和学習」で学年間の学びを継承
- ▶ 中1ギャップ解消：不安なし10%増加



②絵本読み聞かせ(1・7年生)



⑤縦割り班活動(全学年)



③地域住民と花植え(天神)



⑧見守り隊(東条地域で約100名が活動)



⑤第ⅡSミーティング(5～7年生)

キャリア教育・地域連携

- ▶ 7年生「東条の匠」職業体験
- ▶ ふるさと学習・田植え・花壇づくり
- ▶ PTCA(保護者+地域住民)で学校運営
- ▶ 見守りマップで地域全体が子どもを支援

小中一貫を支える仕組み

- ▶ ステージミーティングで児童生徒が主体
- ▶ 「ふらっと参観」で教職員が相互理解
- ▶ 中学校入学式廃止→不安軽減
- ▶ 生活ルールは小中で統一・家庭と共有

主な質疑応答 ※一部抜粋

Q: 反対意見への対応は？

A:

- ・ 児童数減少・施設老朽化・多様な関わりの必要性を説明
- ・ 「子どものためにより良い教育環境を整える」視点で理解を獲得

Q: 教職員の戸惑いは？

A:

- ・ 大きな違和感の声は少ない
- ・ 転任時の研修実施など、丁寧なフォローで対応

Q: 中1ギャップ解消のための取組は？

A:

- ・ 小学5-6年次から中学校の授業を受けたり、上級生との交流を図る
- ・ 中学校が「知らない場所・先生・先輩」ではない場所に